



## 日本史⑬ (平安京)

4月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所  
2024年4月1日(月)

平安京は、桓武天皇の794年(延暦13年)から、1868年(明治1)に東京へ移るまで、その間約1000年間日本の首都であった。

その当時、平安京の営まれる北部山背(山城)は、二つの点において注目される地域であった。

第一は、地域としての先進性、交通の利便である。桂川、賀茂川、宇治川、木津川、更にそれらが合流した淀川が流れており、水上交通が著しく発達していた。陸上交通も同様で、北陸道、丹波道と称された山陰道が通過していた。

第二は、宮都の伝統である、大津京、藤原京、平城京、長岡京など平安京に先行する4宮都を持っていた。

平安京は唐の都、長安をモデルとして東西4.5km、南北5.3km、中央北寄りには宮城(大内裏)が位置し、その東・西・南面に京城が広がっていた。中央には幅84mの朱雀大路があって、平安京の正門とも言うべき羅生門と宮城の入口の朱雀門とを結んでいた。そして、一条大路を北限として南限の九条大路間に11本の横の大路、東宮極大路を東限として、西限の西宮極大路間に9本の縦の大路、この合計20本の大路が平安京の主要道路であった。

平安京は宅地のみからなり、農地は持たず、市内は特別区とされ、条・坊・保・町に区分され、最小の単位は戸主で450㎡(136坪)であった。

桓武天皇は781年(天応元)即位とともに平安京の造営を構想したらしく、784(延暦3)には山背国長岡に遷都した。自身が官僚としての経験を積んでいたこと、蘇我氏の勢力が衰えた時期にあたり、その政治は専制的な親政の特色が強かった。

天智天皇を尊敬し、新たな王朝の創始者としての意識が強く、また母が渡来系氏族であったことから、皇統の正当性のため中国的な皇帝像を理想としていたようで、独裁的な傾向があった。

課題であった蝦夷問題について、5次にわたって進攻し、晩年には一応の安定を得るに至った。

当初平安京の人口は12万人前後と見られ、貴族とその家族が約1,600人、官人とその家族が約3,700人、役人約15,000人、都市住人約90,000と推定されていた。